「わかる」授業づくりを目指して

授業レポート CLASS REPORT

― 日々の授業でできるひと工夫 ―

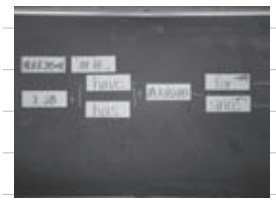
井上志帆　Inoue Shiho　（福岡県川崎町立池尻中学校）

1. はじめに

どのようにしたら，生徒が「わかる」と思える授業ができるのか，ということは，すべての教師にとっての課題です。これまでも，英語を苦手とする生徒に授業を少しでもわかりやすくするにはどうしたらよいか，少しでも苦手意識をなくすにはどうしたらよいか，ということを常に考えながら，授業づくりを行ってきました。こちらが思うようにいかないことが多いですが，それでもあきらめずに，考えて実践し続けていくことが大切だと思っています。現在も日々，同僚と話し合い，アイディアを出し合いながら，よりよい授業づくりをするよう模索しています。今回は，その中のいくつかの実践を，授業の段階別に紹介したいと思います。

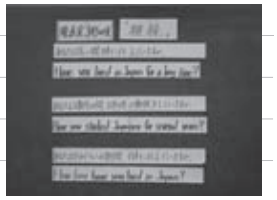
2. 導入，練習，復習：カードの活用

何かの情報を得るとき，耳から聞くだけでなく視覚的な助けがあるほうが，同じ内容を聞いても理解しやすいのではないでしょうか。それが外国語である英語ならば，なおさらです。ピクチャーカード（絵や写真）を用いることにより，英文の内容を理解しようとする姿勢や，実際に理解力が増すことは先生方も感じられていることだと思います。そこで新出表現の導入や，口頭練習の場面では，生徒が英文の内容をよりしっかりと理解できるように，ピクチャーカードをよく利用しています。英文を絵の内容と合わせて何度も練習しておけば，復習の場面でも再利用できるのが，さらによいところです。



ワードカードの使用例

また，ワードカードや，ポイントの文を書いたセンテンスカードを利用すると，黒板に文字を書く時間を節約することができ，何度もくり返し復習することもできて便利です。



センテンスカードの使用例

3. ページ別のまとめ：重要文小テスト

授業中の反応や理解力はよいのに，定期テストになると，プレッシャーからか結果をなかなか出せない生徒がいます。それが続くと，せっかくのやる気も失せてしまいます。それを何とかできないかと思い，日々の授業で達成感をもたせる工夫として，適宜，授業の最初に５分程度の小テストを実施しています。これは，各ページに出てくる重要文を学習したあと，テストする英文を指定し，次の授業で日本語から英語に訳して書くというものです。小テストの結果も評価の対象とすることで，努力すれば結果に少しでもつながることを実感してほしいと思っています。

〔３年生の重要文小テストの例：受け身の文〕

① その自転車は彼によって使われている。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

② シンガポールでは英語が話されている。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

③ この本は夏目漱石によって書かれた。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※１問２点で６点満点

家庭学習が定着していない生徒も多いため，授業中に時間があるときは，短時間でも覚える時間をとり，できるだけ生徒が英文に向き合う時間を増やすようにしています。

問題となる英文の数を限定しているので，英語を

苦手とする生徒の中にも，やる気をもって取り組んでいる生徒が何人もいます。英語を苦手とする生徒が，より前向きにこの小テストに取り組むようにしていくこと，さらに，これらの重要文は定期テストの内容とも関係するため，定期テストでもよい結果を出せるようにすることが，これからの課題です。

4. 展開：発表活動

どうしても中学校には，「高校入試に向けて力をつける」という最終的な目標があります。しかし，それだけでは英語を学習することに楽しさを感じることが少なくなってしまいます。

「楽しい」と一言で言っても，どうすることが楽しいことなのかは難しいところですが，学習したことをすぐにその場で発表したり，学習したことを活用して自分で表現し，それを発表する場をもつことが，「楽しさ」を感じる方法の１つではないかと思っています。ここでは生徒が「楽しさ」を感じながらできる発表活動を２つご紹介します。

①対話文の暗唱発表

１つめは，教科書に出てくる短い対話文を使った，対話文の暗唱発表です。

まず，対話文全体を発音練習し，おおまかに意味を確認します。その後，時間をとって暗記させます。暗記する時間をとる前に，生徒に暗記をして発表してもらうことを伝えると，生徒は最初，「え～！できん！」など弱気な発言をしますが，実際に「では，10 分間，時間をとります。よーい，はじめ。」と合図すると，一生懸命友だちと協力しながら，覚え始めます。英語が苦手な生徒も，懸命になって覚えています。その懸命になって覚える姿を見ると，とても嬉しく感じます。たとえ，最終的に暗記できていなくても，その懸命さがあれば，まずはよいと思うのです。もちろん，全て暗記できていることに越したことはありません。なぜなら，暗記できたという体験が，生徒に自信をつけるからです。

評価は，すべてのセリフを暗唱できたか・ところどころ支援が必要だったか，発表するときの態度（一生懸命，発表しようとしているか）というところで見ていきます。

順番に発表させていくと，途中つまることはあるものの，ほとんどの生徒が暗記して発表します。なかにはジェスチャーつきで，発表をする生徒もいます。そうやって自己表現を加える生徒がいると，教室の雰囲気もよくなります。１回目に暗記することができなかった生徒も２回目はできるように，何度か同じような機会をもちたいと考えています。

この活動は，暗記をすることによって，自然に重要表現も覚えることになるので，１つの効果的な勉強方法を学ぶ機会にもなっていると思います。また，特に準備をしなくてもすぐ行えるというところも，よい点だと思います。

②“Show & Tell”と“Who am I?”の発表

もう１つの例として，２年生と３年生の学期のはじめに行った，“Show & Tell”と“Who am I?”の英作文とその発表について紹介します。“Show & Tell”では何を紹介するか，また，“Who am I?”では何をクイズにするか，を生徒にそれぞれ考えさせ，その意味が伝わるように英文を書かせました。テーマは特に指定せず，ものでも人物でも動物でも，自分が興味のあるものや，英文で書きやすいものを考えて書かせるようにしました。英文を書く用紙は，自分が紹介するものやクイズに出すものの絵や写真（雑誌の切り抜きでもよい）を上部の枠内に入れ，下部のスペースに紹介文やクイズの文を書くというワークシートを準備して使いました。

英文を書かせるときは，書く時間と書く分量を前もって伝えることにしています。時間については，きちんと伝えておかないと，なかなか書き進めることができません。３年生では 20 分で５文以上，２年生では 15 分で３文以上書くことを条件として出しました。文法や内容はもちろん大切ですが，まずはとにかく書いてみることを優先することが，英作文に慣れさせることへの第一歩だと思います。でき上がった英文には文法上の間違いがあるものもありましたが，書くことができたという満足感を感じることができたようです。

生徒作品例 1

書き上がったら，一人ずつ発表させます。発表するときは自分が描いた絵や準備した写真，雑誌の切り抜きなどを見せな

がら，あるいはクイズの場合は答えを言うときにそれらを見せて発表していきました。

評価の観点は，声の大きさ，発音（発音が正しくできているか），内容のわかりやすさ，発表するときの態度の４点です。生徒自身も友だちの発表を聞いて評価していきます。そのための評価を記入する用紙を発表会の前に配布しておきました。

実際の発表では，自分の大切にしている持ちもの（グローブやボール，ペン，筆箱など），家族，友だち，好きな芸能人，アニメのキャラクター，動物，シャーペンの芯など，さまざまなものが出されました。前に出て発表することに，ためらいを感じる生徒もいましたが，全員発表ということで割り切って発表ができたようで，発表後は満足感を味わったようです。

また，発表を聞く生徒も，発表者の言いたいことをくみ取りながら，一生懸命耳を傾けていました。一度聞いただけではよくわからないときは，再度発表するよう要望を出すなど，積極的な姿も見られました。友だちの発表を聞くことは，一生懸命聞こうとする姿勢が身につくこと，よりよい表現を知ることができることなどのよい点もあります。

英語が苦手な生徒はこちらからの声かけ，支援があって，やっと書き始められる状況ですが，なかには辞書を使ったり質問をしたりしながら，自分でどんどん書く生徒もいます。文法上の間違いの訂正は，次時の英作文の時間に行います。

生徒作品例２

5. 学期末：教科書本文の音読テスト

英語学習を前向きにさせるため，また英語を苦手とする生徒に自信をつけ，よりやる気にさせるための方法として，英文をスムーズに音読できるようにすることは重要です。日々の授業でも音読には取り組んでいますが，ただ音読できることの重要さをいくら伝えても，何かがないとなかなかやる気を出せない生徒もいます。

そこで学期に一度，教科書の範囲を指定して，音読テストをするという課題を出します。そうすることで，日々の授業での教科書を読む練習に目的をもたせます。テストする範囲は学期ごとに変えていこうと考えていますが，一例として１学期の場合は，教科書２ページ分を範囲として指定し，テストはそのうちの１ページを行いました。どちらを音読することになるかは，その場でくじをひいて決めるので，２ページとも練習をしておく必要があります。

評価の観点は，声の大きさ，発音が正しくできているか，抑揚があるか，発表するときの態度の４点です。生徒自身も友だちの評価を，用紙に記入していきます。また，暗唱をすることができた場合，プラス点をつけるという条件をつけました。そうすることで，チャレンジ精神をもって行う生徒が少しでも出てくると，ほかの生徒へのよい刺激になるのではないかと思います。

テストは学期末なのですが，それよりも前から発音を生徒同士で教え合ったり，教師に質問してきたりする姿が見られました。これを機会に，英語に自信がもてる生徒が少しでも出てくることを期待しています。

6. おわりに

外国語学習は地道な努力の積み重ねが必要なだけに，外国語を学ぶことの重要性や価値に気づいていない生徒が多くいます。前述したように，中学校では高校入試も学習の大きな目的になります。しかし，目的がそれだけだと，英語を苦手とする生徒にとっては，ますます苦しい時間にもなりかねません。それを少しでも解消するために，どんなことができるかを考えながら，日々の授業で紹介したような実践を行っています。

しかし，どの教科にしても，学習とは本来，きついことを乗り越えながら，本当の「楽しさ」を感じるものだと思います。それを，どう生徒に伝え，どう実感させていくことができるか，それが，生徒が「わかる」授業をつくっていく上での大きな課題になると思います。また，現在行っている取り組みが，どういう結果につながっていくかを点検，修正していくことを忘れてはならないと思っています。